

令和3年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川東中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。



<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和3年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（文部科学省）より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和3年5月27日（木）

4 調査の内容

(国語、算数・数学、英語) 教科に関する調査	・小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等 ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。	
	【中学校 国語・数学 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、部活動の参加状況、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況 など 【20分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、ICT環境整備、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

桶川市の調査結果の概況

中学校

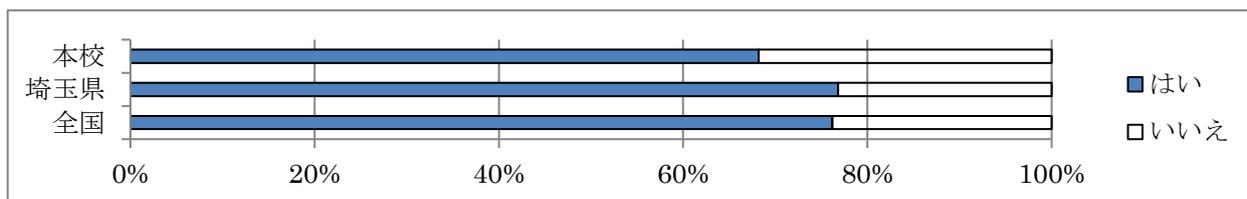
は全国平均正答率を上回ったもの

国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	81.6	79.8	79.8
書くこと	3	57.4	56.7	57.1
読むこと	4	51.0	48.2	48.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	74.5	75.8	75.1

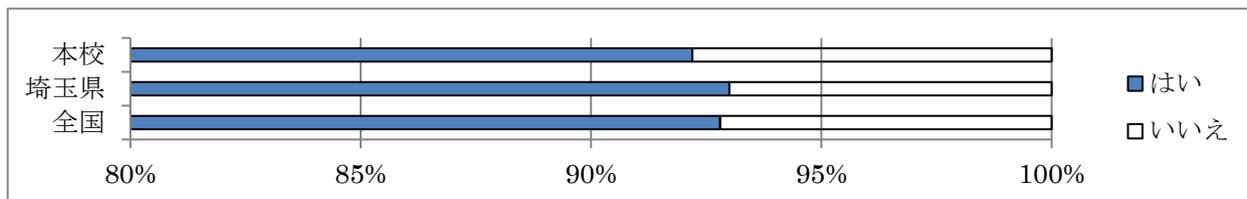
数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	66.0	64.3	64.9
図形	4	51.8	52.0	51.4
関数	3	58.0	55.5	56.4
資料の活用	4	54.4	53.2	53.8

<生徒への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

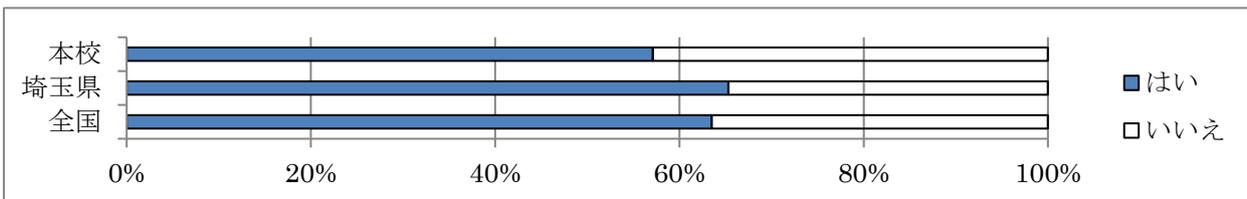
自分には、よいところがあると思う。



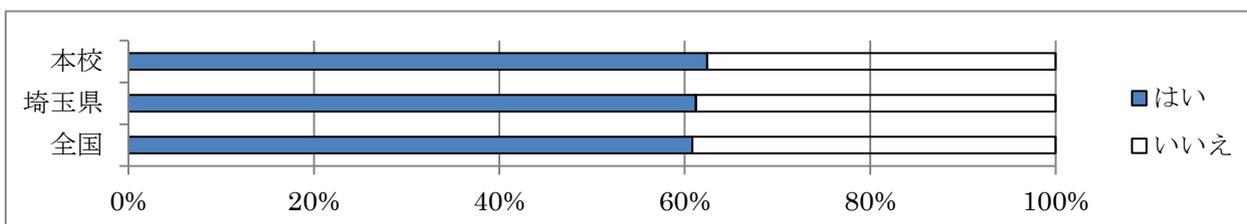
朝食を毎日食べている。



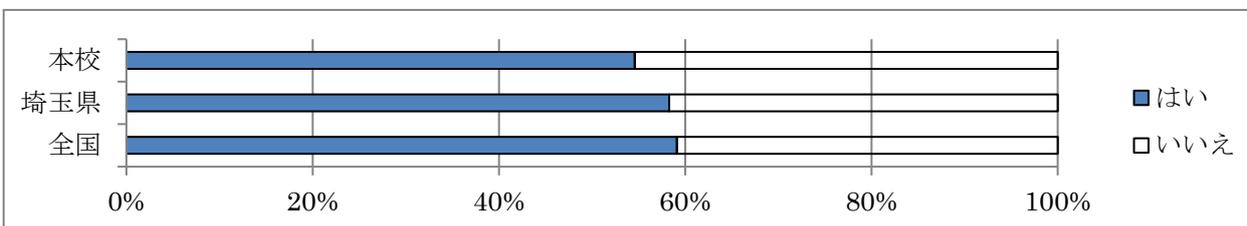
家で、自分で計画を立てて勉強している。



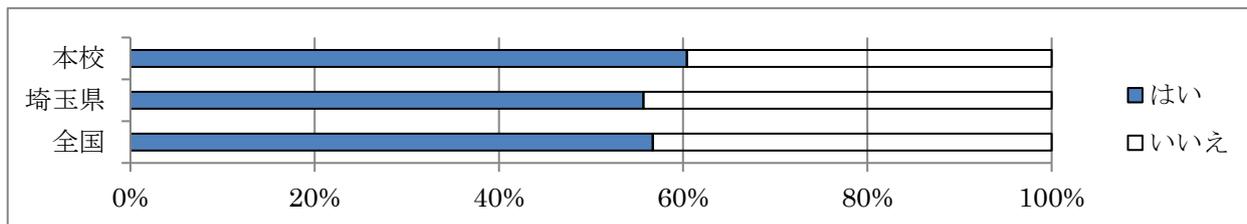
国語の勉強は好きだ。



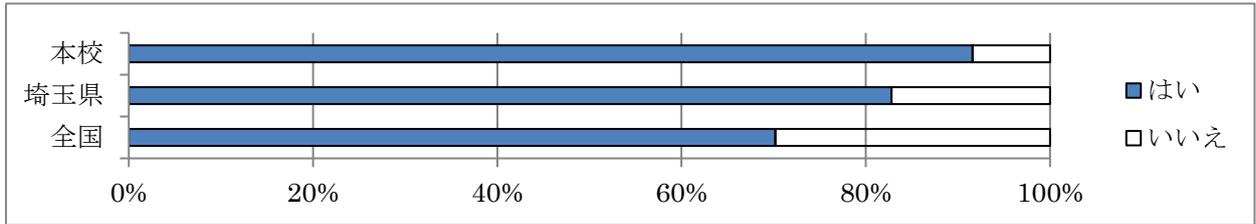
数学の勉強は好きだ。



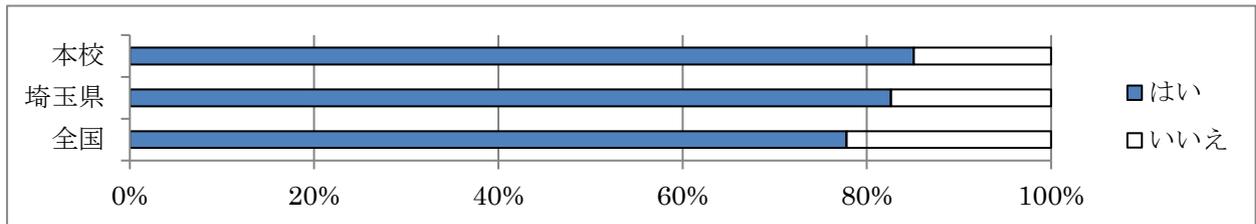
英語の勉強は好きだ。



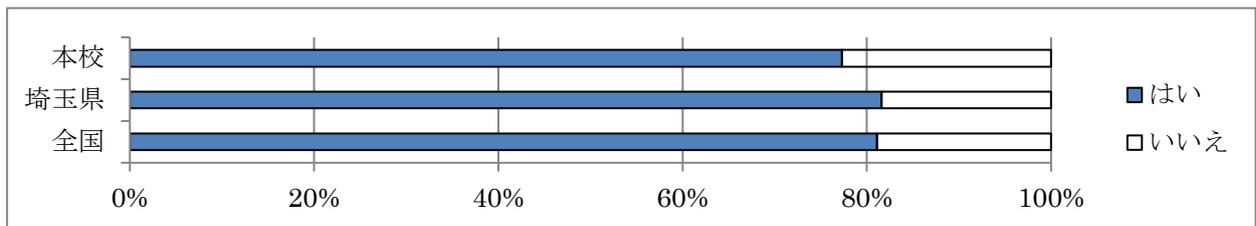
※総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。



※学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



※学校に行くのは楽しいと思いますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

<p>【領域別】 話すこと・聞くこと、書くこと、読むことでは全国平均正答率、県平均正答率で上回った。 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では全国平均正答率、県平均正答率で下回った。</p>	
<p>【問題（例）】正答率が高かった問題</p> <p>問題例 1三 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く 正答 条件を満たして解答している 正答率（本校 63.0% 県 57.6% 全国 57.1%）</p> <p>問題例 3一 「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する 正答 1 正答率（本校 49.4% 県 42.9% 全国 43.7%）</p>	<p>【問題（例）】正答率が低かった問題</p> <p>問題例 4一① 漢字を読む（伸ばして） 正答 のばしてと解答している 正答率（本校 95.5% 県 97.6% 全国 97.5%） 無解答率（本校 3.9% 県 1.4% 全国 1.5%）</p> <p>問題例 4一② 漢字を読む（詳細） 正答 しょうさいと解答している 正答率（本校 89.6% 県 90.3% 全国 88.8%） 無解答率（本校 3.9% 県 2.1% 全国 2.3%）</p>

- ・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの領域は全国平均・県平均を上回る結果となった。
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は全国平均・県平均を下回った。
- ・問題形式の選択式、短答式、記述式においては、全国平均・県平均を上回った。

【効果があったこれまでの取組】

- ・漢字の小テスト等を行い、繰り返し学習を行っている。
- ・定期テストで課題作文等を取り入れ、積極的に書く授業を行っている。
- ・朝学習において、基礎・基本の定着を図っている。
- ・普段から辞書等を使って語彙を増やしている。
- ・ICTを活用したフラッシュカードによる復習を行っている。
- ・デジタル教科書を活用した授業を展開している。
- ・言語活動を通して、生徒が主体的に学ぶ授業を展開している。

【課題】

- ・漢字の読みに関して特に無解答率が高かったこと。
- ・敬語表現で正しい敬語にすることができなかったこと。

【課題の解決策】

- ・基礎・基本の定着を図るために、毎時間の中で漢字の予習・復習を行っていく。
- ・文法事項を学習するときには、復習しながら文法の構図を理解できるような指導を行っていく。

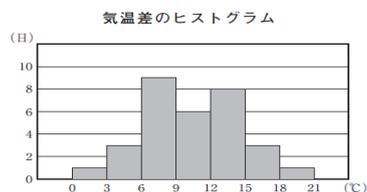
<数 学>

【領域別】

平均正答率が「数と式」「関数」「資料の活用」の領域で、全国・埼玉県 averages 正答率の両方を超えた。しかし、「図形」の領域では、全国の平均正答率は超えたものの、埼玉県の平均正答率は下回った。

【問題（例）】

問題例8 階級の度数



気温差が9℃以上 12℃未満の階級の度数を求めなさい。

<正答> 6人

<正答率>

全国	83.0%
埼玉県	82.6%
本校	87.0%

<無解答率>

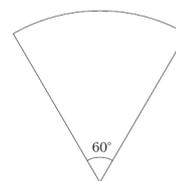
全国	4.2%
埼玉県	4.2%
本校	3.2%

ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができている。

【問題（例）】

問題例3 おうぎ形の弧の長さ

右図のような中心角60°のおうぎ形があります。このおうぎ形の弧の長さは、同じ半径の円の円周の長さの何倍ですか。



<正答> $\frac{1}{6}$ 倍

<正答率>

全国	68.1%
埼玉県	68.3%
本校	66.2%

<無解答率>

全国	0.3%
埼玉県	0.2%
本校	0.0%

無回答者はいなかったが、おうぎ形の弧の長さがその中心角の大きさに比例することの定着に課題が見られる。

- 「図形」の領域では、問題別に見ても、問題9（1）は埼玉県正答率を下回り、問題9（3）では、本校の正答率が3割を下回った。

【効果があったこれまでの取組】

- 本校の取組であるチャレンジテスト（基礎・基本確認テスト：朝学習時）を活用し、基礎・基本の確実な定着を図っている。
- 3つの学び（「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」）を授業時にはたらきかけ、3つの学びのピクトグラム化から生徒への浸透を図っている。
- 学力に二極化に対応するために、授業プリントを作成し、授業のねらいや流れが明確になるように努めている。
- 単元ごとにガイダンスシートを作成し、計画的・継続的な学習を意識させ、単元ごとに振り返りができるようにしている。

【課題】

- 「図形」の習熟度が低い。
- 与えられた情報を読み取り、数学的に表現したことを事象に即して解釈すること、数学的な結果を事象に即して解釈すること、問題解決の方法を数学的に説明することが苦手である。

【課題の解決策】

- 学習内容の系統性・関連性を伝えることで、知識・技能がつながるように指導していく。
- 日々の授業から3つの学びを意識させ、思考を具現化させたり、途中式・問題解決過程をまとめるように授業を展開していく。

<質問紙調査から>

【(例1)】

・総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」は、91.6%

(全国は70.2%)

(分析)

・ICTを活用して、情報収集やスライドの作成を行い、クラス内で発表する活動を行っている。その結果が良好な結果として現れたと考えられる。他にも、「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか。」等においても良好な結果であり、教科横断的な観点からも本質問との関連性を伺うことができる。今後も生徒たちの「主体的・対話的で深い学び」と連動させた授業等、教育活動を展開していきたい。

【(例2)】

・自分には、よいところがあると思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」は68.2%(全国は76.2%)

・家で自分で計画を立てて勉強していますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」は57.1%(全国は63.5%)

(分析)

・3割の生徒が自分の良さに気づいていない等の自己有用感の低さを表す結果になった。学校生活を通して、自分の大切さや良さを見いだせるような教育活動を展開していきたい。
・計画を立てて勉強する項目では、全国平均を下回る結果になった。自学チェックや定期テストの計画を立てるなどの取り組みを行っているが、さらに家庭での学習を定着できるように働きかけていきたい。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>



※「令和3年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和3年5月12日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

<中学校>

は県平均正答率を上回ったもの

国語	第1学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等			
言葉の特徴や使い方	13	66.3	64.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	50.4	52.2
話すこと・聞くこと、書くこと	4	54.2	53.5
読むこと	8	67.0	65.3

国語	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等						
話すこと・聞くこと、書くこと	4	68.9	67.3	4	51.0	48.7
読むこと	9	58.5	58.3	9	82.9	81.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	65.4	64.7	17	65.9	65.4

数学（内容は算数）	第1学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等			
数と計算	12	65.0	64.1
図形	8	53.9	55.2
変化と関係	6	53.1	53.3
データの活用	6	66.3	61.6

数学	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等						
数と式	12	59.5	60.9	12	68.2	63.3
図形	6	55.0	54.8	7	66.1	63.8
関数	8	55.0	55.5	7	58.7	53.6
資料の活用	6	60.8	64.8	6	52.4	46.4

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等						
聞くこと	10	63.7	64.6	10	69.2	61.0
読むこと	18	63.4	65.2	18	64.0	60.2
書くこと	7	47.7	53.2	7	64.9	57.7

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	96.0	93.9	96.8
		97.9	96.7	96.7
	② 授業開始時刻	95.2	93.9	99.4
		96.9	97.6	98.0
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	85.6	87.0	92.3
		89.9	91.0	92.5
④ 整理整頓	73.6	74.8	75.6	
	76.7	78.6	80.5	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	74.4	68.7	85.3
		82.8	82.6	84.2
	⑥ 返事	87.2	84.0	89.1
		87.8	87.4	89.6
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	84.8	88.5	95.5
		90.4	91.2	93.7
⑧ やさしい言葉づかい	80.8	86.3	86.5	
	87.3	87.4	90.3	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	88.8	89.3	95.5
		91.5	91.8	93.7
	⑩ 話を聞き発表する	73.6	68.7	77.6
		76.1	73.8	76.7
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	88.8	87.0	95.5
		92.1	93.2	95.5
⑫ 掃除・美化活動	84.8	85.5	88.5	
	86.4	85.3	86.5	

本校の学力向上の取組

授業における取組

1 個別指導の徹底

- ☆ (1) チームティーチングや個別指導などきめ細やかな指導をしています。
- ☆ (2) 単元毎や授業毎に学習内容の振り返り活動を設定し、基礎基本の定着を図っています。
- (3) 評価と指導の一体化を図り、生徒一人一人の達成度に合わせた指導、助言をします。

2 言語活動の充実

- ☆ (1) 全ての教科において、少人数やペア、グループ、クラス全体といった様々な形態での話し合い活動を行い、意見交換する時間を確保し、伝える力・表現する力の育成に努めています。
- ☆ (2) 各教室にタイマーを設置し、授業の中で、生徒たちが、「考える」「考えを書く」「話し合う」「まとめる」「発表する」時間の可視化を図り、生徒の主体的なはじめある活動を推進しています。

3 学習に対する態度の育成

- (1) 学習意欲を高め、学び合う態度の育成のため、ICT端末や電子黒板などICT機器を活用した授業など、探究心を湧き立たせるような教材や指導を行っています。
- (2) 授業の展開の中に、意図的・計画的に言語活動を充実させる場面を設定し、生徒の思考力・判断力・表現力の高揚を図ります。

授業以外の取組

1 補充学習や朝の小テストの推進、よい良い学習環境づくり

- ☆ (1) 授業規律を明確化し、「授業の約束」「発言の仕方」を教員・生徒の共通の目標として日々取り組んでいます。
- ☆ (2) 定期テスト前に質問会や学習会を設けたり、長期休業中にも補習を実施したりして補充学習の充実を図ってまいります。
- (3) 毎週金曜日のチャレンジテストの取組を推進し、向学心、基礎基本の充実に努めてまいります。
- ☆ (4) 学校生活の様々な場面で意欲を高めたり、心豊かで自己有用感を持つ生徒の育成を目指し、生徒の作品の展示や各行事への取組を表す掲示物の充実を図り、より多くの生徒の成果・努力を表彰する教育活動を推進しています。
- ☆ (5) 朝読書を奨励し、本に親しみ、落ち着いた潤いある学校生活を始めるための時間を設定しています。
- ☆ (6) 生活ノートへの教師によるコメントを通じて適切な助言や励ましを行うことで、生徒の自尊感情の高揚に努めています。

2 家庭学習の習慣化

- (1) 家庭学習の推進のため、自主学習ノートを活用し、より良い習慣化を目指す指導を展開してまいります。
- (2) 新入生保護者会、各学年の保護者会、三者面談、二者面談において、説明とご協力の要請を図ります。

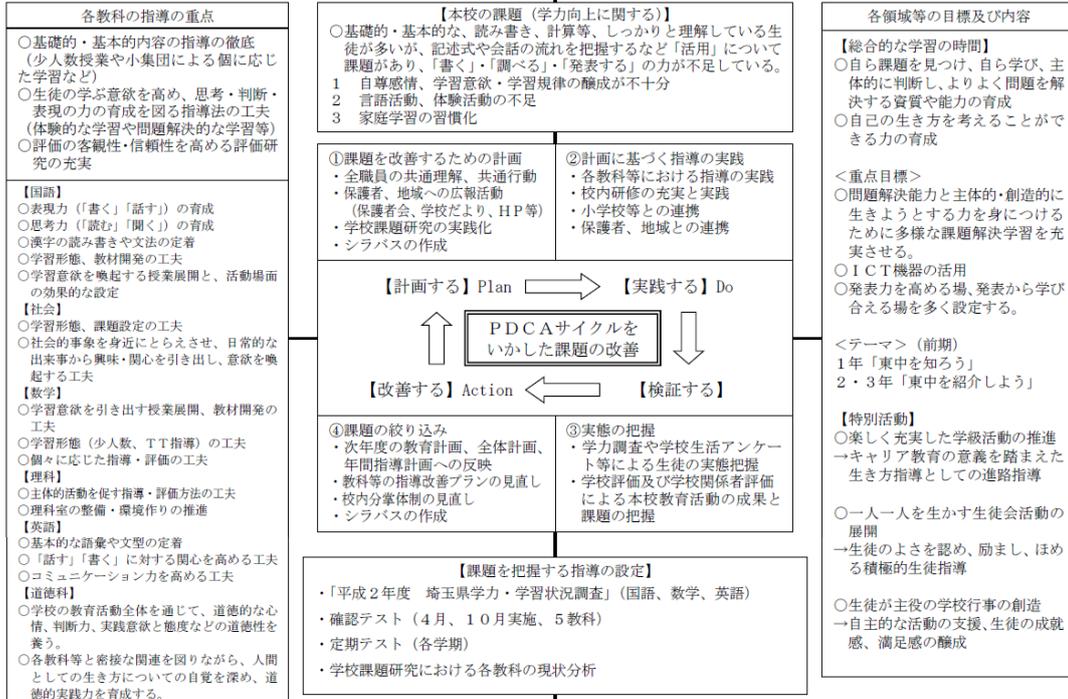
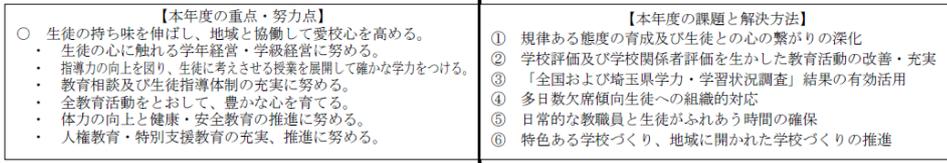
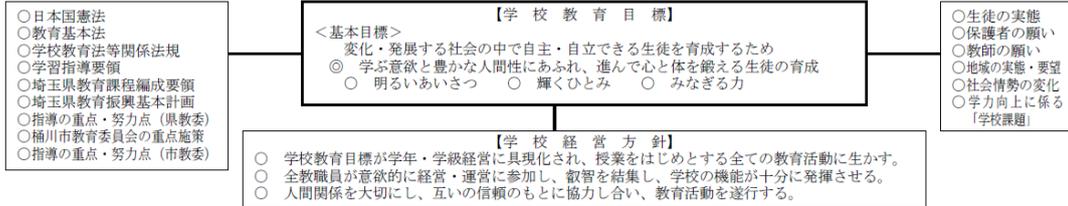
☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

令和3年度 学力向上全体計画

桶川市立桶川東中学校



改善の観点	I 指導内容・指導方法の工夫	II 教育課程の工夫・発展	III 学習評価活動の工夫	IV 家庭・地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎・基本の確実な定着を図り、それを活用する場を設定する。学習内容の系統性を図り、指導方法・形態を工夫する。	生徒の実態を把握しながら、系統的な指導計画の作成や教材の工夫・開発・準備等を行う。	生徒のよい点や達成状況を積極的評価することにより、一人一人の生徒を伸ばす。そのための評価方法や手立てを工夫する。	基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせることで、社会性の育成や自尊感情の向上を図る。
課題解決のための具体的取組（場と方法）	○「授業の約束」による学習規律の徹底 ○生徒の実態や単元の特性に応じた指導の工夫 ・少人数、T T指導、小集団学習 ○定期テストに対する取組 ・取組表の作成と実践、放課後補習、テスト直しノート作成等 ○言語活動の場の設定 ○各取組の発表、1分間スピーチ等 ○基礎的学習内容の補充（テスト前）	○年間指導計画の実践・工夫・見直しと作成 ○教材・教具の準備・補充 ○言語活動及び体験活動の充実 ○情報の活用や情報モラルの指導の工夫	○年間指導計画に基づいた評価規準の作成・見直し ○学習目標の明確化とシラバスの作成 ○授業における生徒の自己評価や相互評価を通し、自己評価能力や自尊感情の向上 ○基礎的内容（漢字、計算、英単語）の定着を図る小テストや定期テストの工夫	○家庭への啓発と評価の実施 ○適切な宿題の在り方（学習量、計画・継続性）の工夫と家庭学習の習慣化 ○家庭学習ノートの習慣化 ○PTAと協力してのあいさつ運動の実施
関連する活動、行事、組織等	○朝読書 ○教育支援担当助問での公開授業 ○学力向上推進委員会	○校内研修 ○課題研究推進委員会 ○教育課程編成委員会	○シラバス ○定期テスト個票 ○通知表	○学校・学年だより ○学校公開、授業参観、保護者会 ○PTA総会

保護者・地域の皆様へ

新学習指導要領では、未来を生きる子どもたちに必要とされる資質・能力の三つの柱、すなわち「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成できるようにするものとし、その実現を目指して「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」と示しています。

本校では学校の課題研究として、「できた、わかった、楽しい」を味わわせる学習指導の質的改善～主体的・対話的で深い学びを通して～を研究テーマとしています。生徒にとっての毎日の授業が「できた、わかった、楽しい」という感動があれば学校が好きになる。そのためにも「やらされている授業」「仕方ないからやる」という受け身の授業からの脱却（生徒の主体的な学習）が重要であると考えています。さらに昨年度までの「学び合い」の場面を取り入れた学習過程を検証し、真に「対話的で深い学び」になるよう研究を深めることが重要です。

今回の確認テスト(実力テスト)においても、各学年とも経年に伴って、着実に学力が向上している様子も見られました。これより殆どの生徒が、学校生活に誠実に、勤勉に取り組み、結果が出ているといえます。

今後も、授業だけでなく、あらゆる教育活動において、生徒の主体性や生徒同士を主とするコミュニケーション能力等の育成、現代の情報化社会における情報モラルやグローバル化をも盛り込んだ道德教育の推進を図り、益々多様化、高度化する社会を逞しくしなやかに生きる力の育成を推し進めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましても本校への益々のご支援、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。